

九艘川公園魅力化プロジェクト

編集：役場建設水道課 2019.11.29

第4回ワークショップを開催！

11月17日（日）、九艘川公園魅力化プロジェクト第4回ワークショップを開催しました。

9月に始まったこのプロジェクトも今回のワークショップでひと区切り。テーマは「九艘川公園を魅力的に！～一歩前へ進むために」。来年の取組にどのようにつながっていくかが課題です。これまで取り組んできたワークを振り返りながら、九艘川公園を魅力的にするビジョンに参加された皆さんで確認し、具体的なアクションを考えるワークに取り組みました。

「やすらぎのせせらぎ、よろこびの波紋 九艘川公園」

まずは、スライドを見ながら、事務局から改めてプロジェクトの趣旨説明と第3回までのワークショップの振り返り。写真に写る皆さんの装いの変化に時間の経過、季節の移り変わりを感じます。

ここで進行をファシリテーターの泉花奈さんにバトンタッチ。軽く体を動かしたあと、チェックインでグループごとに近況報告。体も頭も温まったところで、いよいよ新しい九艘川公園のビジョンの発表です。

第3回のワークショップで皆さんから出されたビジョンの案や大切にしたいと思うことを、下の枠囲みのおり『ミッション（存在意義）』『ビジョン（将来像・行動指針）』『バリュー（大切にしたいこと）』としてまとめさせていただきました。ミッションの中の「せせらぎ」「波紋」はもともとあった九艘川の「川の流れや水面の広がり」をイメージし、くつろぎ・やすらぎの空間、そして、人が集い活動することで笑顔・よろこびが広がる空間となつてほしいという思いを表現したものとなりました。

皆さんからはフレーズや表現についてはご評価をいただけたものと思います。一方で、「どのように実現するかが課題」「持続可能な仕組みづくりが重要」など今後の取組を見据えたご意も伺うことができました。

■ミッション（存在意義）

やすらぎのせせらぎ、よろこびの波紋 九艘川公園

■ビジョン（将来像・行動指針）

できないことは何もない！
挑戦を歓迎し、喜びを伝播させる仕組みをつくる

■バリュー（大切にしたいこと）

- 1) **共創によるつながりの創出**
たれかの挑戦をみんなで応援したり共に行動したりすることで、人とのつながりを実感できる機会を創出します。
- 2) **歴史とストーリーの尊重**
江差町の歴史によって育まれてきた九艘川周辺の景観が、来る者を癒し、地域住民の暮らしに寄り添ってきたストーリーを尊重します。
- 3) **寄り道したくなる自然の演出**
水を中心に、風、花、木といった自然を五感で感じる場作りを通し、毎日寄り道したくなる止まり木のスペースを演出します。
- 4) **持続可能な仕組みづくり**
ひと・もの・お金・環境など場作りに必要な全方位に配慮し、負荷の少ない持続できる仕組みを実行します。



↑グループワークの様子
(チーム「蛭子山」)



↑グループワークの様子
(チーム「華の会スピンオフの会」)

具体的な取組のアイデアをグループで考えよう！

ミッション・ビジョン・バリューを確認したところで、次は、来年以降の具体的な取組についてのアイデアを考えるワークです。2つのチームに分かれ、それぞれのチームで4つのバリューの中から1つを選んで、6W2H(いつ・どこで・誰が・何を・なぜ・どのように・いくらで)を意識しながら具体的な取組のアイデアを考えていただきました。各チームから出されたアイデアは次のとおりです。

チーム「華の会スピンオフの会」

【アイデア】

- 植木の選定・剪定・伐採など
(トイレ前の手入れされていない木の剪定、すべり台横の松の木の伐採)
- 四季を演出する木の植栽
(アジサイなど、塀の代わりに植栽も)
- 花壇づくり
(材料を住民の皆さんから提供してもらう)
- 組織・体制づくり



アイデア発表 左：チーム「華の会スピンオフの会」、右：チーム「蛭子山」

チーム「蛭子山」

【アイデア】

- 水の流れの再現、ホタルの生育環境づくり
(プロの関わりが必要)
- 斜面への植栽(芝桜、アジサイ/管理に費用がかからないように)
- 塀を撤去→冬の雪捨て場(地域課題)→子どもの遊び場に(雪山)
- 蔵(トイレ)を山車蔵に改装→中歌町民の拠り所に→持続可能にする要素に



どちらのチームの発表も、メンバーの知恵がうまく混ざり合い「発酵」して、チームの個性が出た内容になったのではないのでしょうか。発表後の意見交換では、チーム「蛭子山」の山車蔵のアイデアについて、「地域住民の関わりが増える」「人が集まることで、公園を守り育てていく持続可能な体制づくりにつながる」など評価する意見が多く出されました。

終わりに・・・そして、来年に向けて！

プロジェクトに参加していただいた皆さん、ありがとうございました。(3名の方が「皆勤賞」で参加してくださいました。)

また、乙部町から参加していただいた近藤さん(フードスタイリストをされています)、檜山の味覚を材料として使った素敵なサンドイッチを差し入れしてくださいました。ありがとうございました。

今後、地域の皆さんやプロジェクトに参加して下さった皆さんとも連携しながら、今回出されたアイデアなどを「できることから少しずつ実行に移す」取組を進めていきたいと考えています。その際には、ぜひ、ご参加いただければと思います。



最後に参加者のみなさん、ファシリテーターの泉花奈さん、アドバイザーの池ノ上真一さんと記念撮影